

日本語の口語における
スクランブリングの分析

(統語論の立場からの一考察)

ジャヤンティ・ガヤテリナ

0242059



マラナタキリスト教大学

文学部

日本文学科

バンドン

2007

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	i
DAFTAR ISI.....	iii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian.....	6
1.5 Organisasi Penulisan.....	6
BAB II LANDASAN TEORI.....	8
2.1 Definisi Sintaksis.....	8
2.2 Satuan Sintaksis.....	9
2.2.1 Kata.....	9
2.2.2 Frase.....	9
2.2.3 Klausa.....	10
2.2.4 Kalimat.....	10
2.3 Fungsi Sintaksis.....	11
2.3.1 Subjek.....	11
2.3.2 Predikat.....	11
2.3.3 Objek.....	12
2.3.4 Pelengkap.....	12
2.3.5 Keterangan.....	12
2.4 Struktur Kalimat Bahasa Jepang.....	13
2.5 Ragam Lisan dan Ragam Tulisan.....	18
2.6 <i>Scrambling</i>	20
2.6.1 <i>Scrambling</i> dalam Bahasa Jepang.....	21
2.6.2 <i>Configurational Language</i>	23
2.6.3 <i>Non-configurational Language</i>	24

2.6.4 Bahasa Jepang sebagai <i>Configurational Language</i>	27
BAB III ANALISIS KALIMAT ACAK BAHASA JEPANG.....	32
3.1 <i>Short-distance Scrambling</i>	32
3.2 <i>Middle-distance Scrambling</i>	42
3.3 <i>Long-distamce Scrambling</i>	49
3.4 Kalimat Acak lainnya.....	54
BAB IV KESIMPULAN DAN SARAN.....	62
4.1 Kesimpulan.....	62
4.2 Saran.....	63
SINOPSIS	
DAFTAR PUSTAKA	
LAMPIRAN	
RIWAYAT HIDUP PENULIS	

要約

I. 序論

外国語を学ぶ際はその言語のさまざまな面を知り、理解する必要がある。日本語は多くの特徴を持つ言語である。その一つに日本語はその文の構造から見て SOV の語順を有している。一方英語やインドネシア語は SVO の語順になっている。例えば、インドネシア語で「Ali membaca komik」という文は、日本語では「アリさんはマンガを読む」になる。つまり、日本語では「読む」という述語を一番最後に置くのである。

日本語の形の文を作るとき、もちろん決まった規則があるが、日常生活においては、その構造が変形することがよくある。文の構成要素が省略されたり、語順が変わったりするのである。このような変形は特に口語によく起こる。

例文：

- (1) a. ジョンがマリをぶった。
- b. マリをジョンがぶった。
- c. *ジョンがぶったマリを。
- d. *ぶったジョンがマリを。

(Kuno, 1973:3-4)

(1a) の文は SOV の語順になっていて、文法的である。(1b) 主語や目的語の要素が倒置しているが、この文も文法的である。(1c) と(1d) の文は非文法的である。(1a) と(1b) は語順が違うが、意味は同じである。

2 ページ

標準の語順を持たない文のタイプを「*scrambled sentence*」と言い、この現象は「*scrambling*」という (cf. Harada 1977; Whitman 1979; Saito 1985)。日本語の言語学では倒置構文と言い (Watanabe, 2000)、話し言葉に多く現れる。Harada (1977) は、日本語の文法にさまざまな制限があるので、全般の文に自由に当てはめることはできない、と言っている。Tada (1993) は、日本語の文構造にもとづいて *scrambling* を、三つの種類に分けている。S-*scrambling*、M-*scrambling*、L-*scrambling* というものである。それらの例を以下に挙げる。

(11) a. S-*scrambling*:

ジョンがこの本をマリにあげた。

b. M-*scrambling*:

この本をジョンがマリにあげた。

c. L-*scrambling*:

この本をビルがジョンがマリにあげたと思ってる。

(Tada 1993:15)

S-*scrambling* というのは動詞句の中におけるスクランブリングのことで、M-*scrambling* というのは節または文の最初の位置におけるスクランブリングのことである。そして、L-*scrambling* というのは節の境界を越えたスクランブリングのことである。

3 ページ

II. 本論

分析の例：

1. あとは そのお気持ちを 楓様に ぶつけるだけです!!

状況語 目的語 補語 述語

(CHAO 6, 2005:220)

この文は *S-scrambling* のタイプに入る。動詞句においてスクランブリングが住んでいる。‘そのお気持ちを’ という目的語が、‘楓様に’ という補語の前に出てくる。標準的な文では‘そのお気持ちを’ の目的語が‘ぶつけるだけです’ の述語のまえに位置するのである。

文法的機能を果たす助詞の位置を変えず、上記の文をスクランブリングすれば、次の文の構造を作ることができる。

- a. そのお気持ちをあとは楓様にぶつけるだけです!!
- b. そのお気持ちを楓様にあとはぶつけるだけです!!
- c. 楓様にあとはそのお気持ちをぶつけるだけです!!
- d. 楓様にそのお気持ちをあとはぶつけるだけです!!

上記のように、助詞をそれぞれの名詞句なら文法的機能を果たす格助詞を、その位置から離さない場合、スクランブリングをしても、それらの文は文法的であり、意味も変わらないのである。

- a. *そのあとはお気持ちを楓様にぶつけるだけです!!
- b. *あとはお気持ちをその楓様にぶつけるだけです!!
- c. *あとはお気持ちを楓様にそのぶつけるだけです!!

4 ページ

それぞれの助詞・格助詞をスクランブリングすると、その文は非文法的になるのである。したがって助詞はスクランブリングすることができないのである。

37. 鍵を 僕が ジョンが マりに 渡した と思った。

目的語 主語 1 主語 2 補語 述語 (Haig:1976)

この文は *L-scrambling* のタイプに入る。節の境界を越えてスクランブリングが起こっている。'鍵を'の目的語は従属節から離れ、文の冒頭に出てくる。この文においても助詞・格助詞は文法的の機能を果たし、主語や述語や目的語や補語に付いている。助詞・格助詞をスクランブリングすると、文の構造はこのようになる。

- a. *鍵に僕がジョンをマりが渡したと思った。
- b. *鍵が僕にジョンをマりが渡したと思った。
- c. *鍵をが僕ジョンがマりに渡したと思った。
- d. *鍵を僕がジョンマりがに渡したと思った。

上記のように、助詞・格助詞をスクランブリングするとすべての文は非文法的である。

助詞・格助詞をそれぞれの名詞句から離さず、他の要素を倒置する場合、文は次のようになる。

- a. マりに僕がジョンが鍵を渡したと思った。
- b. *ジョンが僕がマりに鍵を渡したと思った。

5 ページ

上文は従属節の他の要素をスクランブリングしたが、果たして a の文は文法的で、b の文は非文法的である。したがって、*L-scrambling* では、従属節の主語は節の境界からスクランブリングできないという制限があることになるのである。

III. 結論

日本語は自由に語順を変えることができる言語である。文に文法的機能を示す助詞が後置詞であるからである。つまり、日本語の *scrambling* の原因は、特に話し言葉の中には文法的機能を示す助詞が後置詞であるので、それぞれの要素がいかなる機能を果たしているか決まっているからである。日本語では文法的機能を変えずにスクランブリングすることによって構成要素を倒置することができる。

日本語の *scrambling* に制限がある、すなわち：

1. 述語として、動詞は文の最後に位置しなければならない。
2. 文法的機能を示す助詞と後置詞はスクランブリングすることができない。
3. 名詞の修飾語はスクランブリングすることができない。
4. 接続助詞の‘と’を接続される二つまたはそれ以上の名詞はスクランブリングすることができない。
5. *L-scrambling* のタイプの中には従属節の主語は節の境界からスクランブリングすることができない。

ryuushi
粒子の場合 particle case

scrambled sentence 無秩序な文

動詞句 verb phrase

名詞句 noun phrase

最初の節 initial clause

文法的 gramatikal

じょし 助詞 particle, postposition •ŽE(,¶,ã,µ)

境界 boundaries

先を争うこと scrambling

かきませきそく かき混ぜ規則 scrambling kakimazekisoku
scrambling

構造 construction

- *M-scrambling*

95. あの映画を 太郎は 十五回も 見たんだって。。。

目的語 主語 状況後 述語 (Masunaga:1994)

- *L-scrambling*

97. 鍵を 僕が ジョンが マりに 渡したと思った。

目的語 主語1 主語2 補語 述語 (Haig:1976)

- 他の *scrambling*

6. ツメを あやまったわね 小娘ども。

目的語 述語 主語 (ひな子、120)